

令和4年度 教育計画書

令和4年4月1日

徳島県立農林水産総合技術支援センター
農業大学校（本科）

目次

1 教育目標、教育方針

- (1) 教育目標 1
- (2) 教育方針 1

2 教育の方法

- (1) コース制 2
- (2) 基礎から高度・専門、応用にいたるカリキュラム編成 2
- (3) プロジェクト課題解決学習 3
- (4) 学生自治会活動の積極的支援 3
- (5) 模擬会社「徳島農大そらそうじゃ」による経営実践学習 3
- (6) 科目間の相互関係（カリキュラムマップ） 5
- (7) 実践学習体系（コース実習、模擬会社、学生自治会） 7

3 修学達成度の把握と学校関係者評価

- (1) 修学達成度の把握 9
- (2) 学校評価 9

4 多様な進路に対応した指導体制

- (1) 早期からの進路指導 10
- (2) 農業の担い手、地域農業のリーダー育成 10
- (3) 食品産業等農業関連企業への就職支援 10
- (4) 4年制生大学への編入学対応 10

5 科目履修表・授業計画（シラバス）

- (1) 1年次生（令和4年度入学生適用） 12
- (2) 2年次生（令和3年度入学生適用） 22
- (3) 指定科目（資格取得教科） 31
- (4) 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表 32

6 沿革、学校施設、ほ場図等

- (1) 沿革 36
- (2) 学校施設、ほ場図 37

7 添付資料等

- (1) 徳島農大そらそうじゃ定款 38
- (2) 徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校学校評価実施要領 41
- (3) 農業・6次産業体験学習実施要綱 42

1 教育目標、方針

(1) 教育目標

農産物の生産から加工、販売までの実践を中心とした農業教育を通じ、幅広い教養と農業及び食料に関し深い理解と熱意を持った農業及びその関連産業の担い手を育成する。

(2) 教育方針

①自主性の育成

自ら課題を設定し、自主的にプロジェクト課題解決学習に取り組むことで、意欲と実行力のある人材を育成する。

②仲間づくり

互いに協力しあいながら実習や集団活動等に取り組むことで、自律と協調の精神を養う。

③実践学習

講義、演習で得た知識を活かし、実践学習へ発展させることで、問題解決能力を養成する。

④マンツーマン指導

個性や進路希望等をふまえた濃密な指導により、学生個々の目標実現を支援する。

⑤コーディネータの養成

地域社会・経済や人々の考え方、技術を結びつけることで、地域振興や新たな取り組みにつなげるコーディネート能力を養成する。

⑥地域農業等への寄与

先進農家、関係機関や団体及び農業・食品関連産業等との連携を深め、総合的な指導体制により、幅広い視野と経営能力を有する地域産業や農村生活のリーダーを養成する。

2 教育の方法

(1) コース制

① 2 コース制

学生は「農業生産技術コース」、「6次産業ビジネスコース」のいずれかに所属し、各コースの人材育成目標に沿った科目履修、プロジェクト課題解決学習活動に取り組む。

② 農業生産技術コースの人材育成目標

高度・専門的な農業生産技術を習得し、技術改善や新技術の導入等により地域農業を先導しうる経営感覚に優れた農業経営者の育成を目指す。

③ 6次産業ビジネスコースの人材育成目標

農産物の生産管理に加え、高付加価値化のための加工や多様な販売戦略等広範囲な知識と高度な経営感覚を有し、地域経済の創造に貢献しうる多様な人材の育成を目指す。

(2) 基礎から高度・専門、応用にいたるカリキュラム編成

① 基礎学習

1年次生前期を基礎学習期間とし、農業学習に必要な言語力や計算力、社会性の醸成に資する教養科目及び農業生産管理に必要な基礎的知識を習得する。

② 発展学習

1年次生後期から2年次生前期を発展学習期間とし、基礎的分野の講義・演習で得られた知識を基礎に、専門的な農業生産技術及び各コースが目指す人材育成目標に沿った選択科目の履修と体験学習及び課題解決学習に取り組み、問題解決能力の養成につなげる。

③ 総括学習

2年次生後期を総括学習期間とし、高度・専門的な知識、地域社会・経済及び組織運営の理解を深める。

④ 資格取得講座（指定科目）

指定科目や特別講義により、大型特殊自動車免許・けん引免許（農耕用限定）、家畜人工受精師・家畜商、危険物取扱者、毒物劇物取扱者、農業技術検定（2・3級）、造園技能士（2・3級）、フォークリフト運転技能資格、食の6次産業化プロデューサー（レベル2）、土壤医、狩猟免許等の資格取得を支援する。

⑤ 科目間の相互関係（カリキュラムマップ）及び授業計画（シラバス）

基礎から発展、総括に至る履修科目は、各科目の履修内容の理解と修得の助長を考慮した配置（カリキュラムマップ）と授業計画（シラバス）により、学生の修学意欲の維持と向上を目指す。

<別添> 科目履修表・授業計画（シラバス）

(3) プロジェクト課題解決学習

①プロジェクト課題解決学習のねらい

講義や演習で得た知識を実習で体験し、学習過程と論文のとりまとめを通じ“生きた知見”として修得するとともに、論理的な思考力や深い洞察力、鋭い観察眼、実習に取り組む忍耐力等を培い、将来、様々な問題に直面したときの問題解決能力を養成する。

②プロジェクト課題解決学習の手法

学生自身が、将来ビジョンの実現に向け自ら課題を設定し、課題解決の具体的計画を作成し、遂行する課程（体験）を通じ知識と技能を修得する学習方法である。

目標は自家農業や地域農業、経済、社会に至る問題分析を行い、将来の地域農業、地域経済・社会への貢献を目指し設定する。

目標設定にあたり、現状の問題分析による課題設定にとどまらず、将来のあるべき姿と現状との乖離を課題として設定する“現状突破型（ブレイクスルー）”の目標設定に努める。

実践段階では計画（Plan）、実践（Do）、評価（Check）、行動（Action）の過程について「プロジェクト・マネジメント」手法を活用し、進捗管理する。

計画は農業大学校の設備、修学年数で達成可能な“仮説”と“検証”を基本とするが、課題や目標が大きい場合には、徳島県立農林水産総合技術支援センター各担当や外部協力者の支援を得ながら、広範囲、長期にわたる課題設定も可能とする。

学習の初期、実践段階の時期に「計画発表会」、「中間検討会」でプレゼンテーションし、得られた意見や助言をふまえ「卒業論文」としてとりまとめたのち、「成果発表会」で生計維持者、関係者、学生及び職員に対し発表する。

(4) 学生自治会活動の積極的支援

農大祭や四国農業大学校スポーツ大会、収穫祭等は学生自治会が主催する行事だが、“仲間づくり”や“自律と協調の精神”を養い、他者との関わりを通じ“社会性の養成”を促す効果が認められるため「学校行事」と位置づけ、積極的に支援する。

(5) 模擬会社「徳島農大そらそうじゃ」による経営実践学習

①模擬会社設立の目的

社名の「そらそうじゃ」は徳島地方の言葉で“同意と共感”を意味する。

事業計画に基づき、学生がリスクを背負い、利益を追求することで、緊張感と達成感のある経営者育成手法を実践する場所とし、平成22年10月25日設立された。

学生の実習やプロジェクトを事業活動とみなし、学生同士並びに学生と地域の1次、2次、3次事業者と“同意と共感”にもとづく連携を通じ6次産業化を進め、その過程を体験することで起業（企業）家精神と様々なビジネススキル、社会性（リーダーシップ、フォロワーシップ）を養成する目的がある。

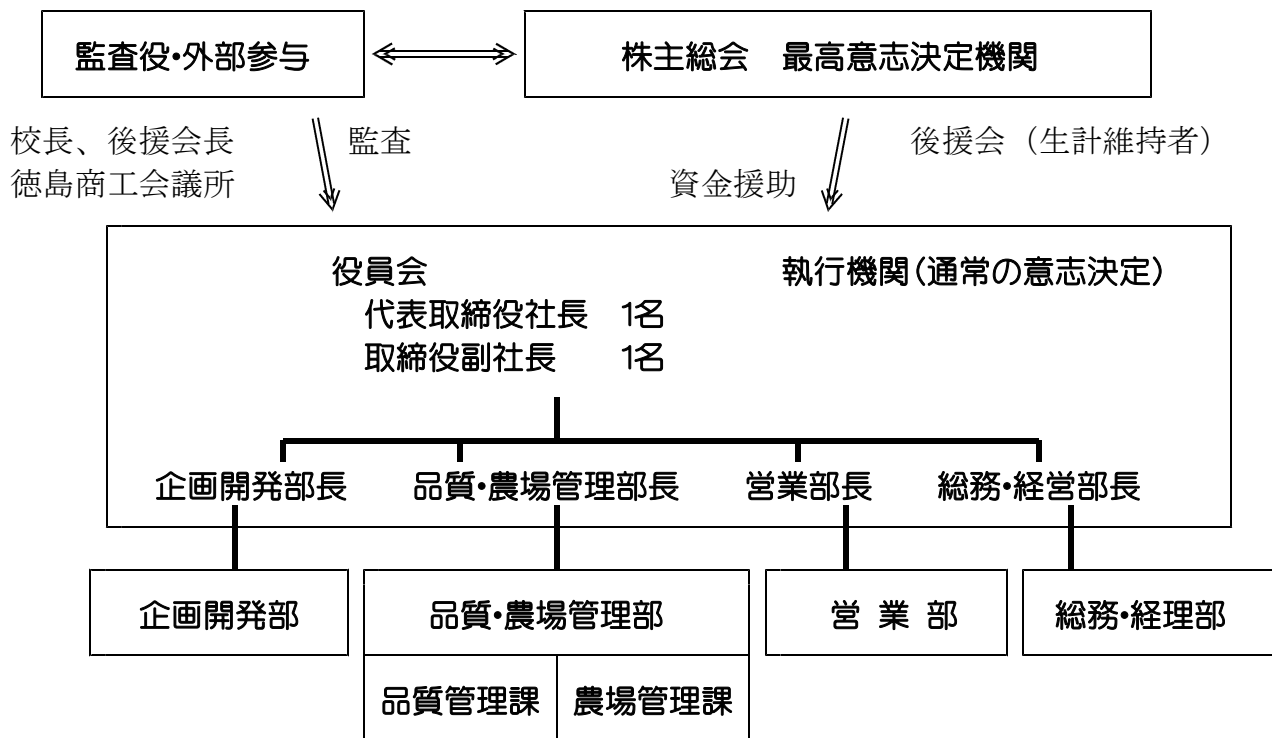
②経営理念と事業内容

会社活動は日常の学習・実習やプロジェクト活動と一体的に行うことから、その成果を“商品”とみなしている。したがって“商品”は農産物や加工品など形のあるものば

かりでなく、収穫作業や農作業体験等のサービス、新技術の開発と地域への提案、実証展示等も“商品”として地域社会へ波及することを経営理念に持ち、事業内容としている。

③機関構成

○徳島農大そらそうじゃ 組織図（平成31年度～）



④各部局の責任分担と主な役割

○役員会

対外的に社を代表して活動し、事業活動のとりまとめ、通常の意志決定を行う。

○企画開発部

独創性、創造性を重視し、新たな価値の創造を目指した活動を行う。

○品質・農場管理部（品質管理課、農場管理課）

生産活動の環境整備と工程管理を行い、品質の維持と向上並びに生産量の確保を目指す。

○営業部

顧客の視点で商品化やサービスのあり方を考え、売れる仕組みをつくる。

○総務・経理部

粗利や経費等の資金の流れをフローで情報化し、経営資源を有効活用する。

⑤模擬会社の事業活動と代表者に関する規程

模擬会社「徳島農大そらそうじゃ」の事業活動は、教育活動の範疇で行うことから、あらかじめ定められた「定款」と「規約」に基づき行う。

「定款」は、事業展開及び学生の活動を規程するものとして定める。

「規約」は、学生に加え、徳島商工会議所、後援会（生計維持者）及び農業大学校職員から構成され、対外的な契約や事業展開時の信頼性、教育効果を保証するため定める。

<別添> 徳島農大そらそうじゃ定款（平成22年10月25日作成）

(6) 科目間の相互関係 (カリキュラムマップ)

履修目的	1年次生	
	前期 基礎学習期	後期 発展学習期
教養 視野を広め、幅広い人間性を醸成する。	小論文 [30] 選択 英語 I [30] 進学英語 I [30] 選択 生物 [30] 補講 基礎計算 [16] 体育 (選択: 野球・卓球・バレーボール・バドミントン) [30] 特別講義 (農業法人交流会、その他) [29] 必須 集団活動 (剣山登山、農大祭、学生自治会活動、その他) [64]	選択 英語 II [30] 進学英語 II [30] 選択 農村社会と文化 [30] 化学 [30] 語学力や計算力、基礎学力を高め、発展学習に備える。
栽培・飼養管理 農業生産技術の基礎から専門まで幅広く学ぶ。	農業基礎 [30] 作物 [30] 野菜園芸 [30] 果樹園芸 [30] 実用計算 [16] 基礎演習 農学実験 (植物・動物の観察、土壌分析、果実分析、バイオテク演習他) [20] 農業簿記 (農業簿記の基礎から決算まで) [20] 情報処理 (データ整理、文書作成、プレゼンテーション他) [20] 作業演習 (農業機械等の利用と整備他) [20] 農業・食品加工基礎演習 [76]	花き園芸 [30] 畜産 [30] 卒業演習 I [16] 農業技術や経営の基礎を学び、実践的な課題解決力の習得につなげる。
食品・流通 農産物の価値や流通を学び、理解を深める。	食品栄養学 [30]	食品機能学 [16] 農産物・食品流通特論 [16]
経営		6次産業化概論 [16]
社会・経済 経営の基礎から専門、地域社会・経済まで幅広く学ぶ。		地域農業 [16]
選択 / 農業生産 農業生産に関する深い知識と実践経験を積む。	農業機械学 [16] 必須 コース実習 I [116]	施設園芸学 [16] ICT利活用 [30] 必須 コース実習 II [312] 必須 農業体験学習 [72]
選択 / 6次産業 6次産業に関する深い知識と実践経験を積む。	デザイン基礎 [16] 食品加工演習 [16] 必須 コース実習 I [100]	食品加工保蔵学 [16] 食品衛生学 [30] 必須 コース実習 II [312] 必須 6次産業体験学習 [72]
指定科目・資格取得	造園技術・造園技能 [32]	危険物取扱者 [16] 毒物劇物取扱者 [16] 農業技術の基礎 [16] 農業機械実習 [32] フォークリフト実習 [48] 土壌医試験3級対策講座 [16] 土壌医試験2級対策講座 [16] 狩猟免許試験対策講座 [8]

2年次生		人材育成目標
前期 発展学習期	後期 総括学習期	
キャリア形成 [8]		豊かな人間性と社会規範をもつ人材を養成する。
体育（選択：野球・卓球・バレーボール・バドミントン）[30]		
特別講義（農業法人交流会、その他）[21]		
必須 集団活動（農大祭、学生自治会活動、その他）[50]		
選択 果樹栽培各論 [30] 野菜栽培各論 [30] 花き栽培各論 [30] 家畜飼養管理 [30]	植物防疫学 [30] 農業気象学 [16]	農業技術者として、成長し続けるための礎を築く。
特産物生産 [16] 植物生理学 [30]	高度技術演習 [16]	
食の安全・安心 [16] マーケティング論 [16]	卒業論文Ⅱ [30]	農業技術にとどまらず、食品流通や地域社会、経済に対する幅広い視野を有する人材を育成する。
経営戦略論 [30]	農業経営と組織論 [30]	
環境と農業 [30]	地域経済論 [16] 農業政策 [30]	
GAP演習 [16] 土壌肥科学 [16]	必須 卒業論文 [150]	技術改善や新技術の導入等により地域農業を先導しうる経営感覚に優れた農業経営者を育成する。
必須 コース実習Ⅲ [232] 必須 農業体験学習 [72]	必須 コース実習Ⅳ [264] 農業巡見 [16]	
HACCP演習 [16] 園芸福祉 [16]	必須 卒業論文 [150]	加工や多様な販売戦略等広範囲な知機と高度な経営感覚を有し、地域経済の創造に貢献しうる人材を育成する。
食品産業特別講義 [16] 新ビジネス創造 [30] <small>※生産コース受講可</small>	必須 コース実習Ⅳ [264] 6次産業巡見 [16]	
造園技術・造園技能 [32]	危険物取扱者 [16] 毒物劇物取扱者 [16] 農業技術の基礎 [16]	各種資格を取得し、進路選択の幅を広げる。
	農業機械実習 [32]	
	フォークリフト実習 [48]	
	土壌医試験3級対策講座 [16]	
	土壌医試験2級対策講座 [16]	
	狩猟免許試験対策講座 [8]	

(7) 実践学習体系 (コース実習、模擬会社、学生自治会)

履修区分・目的		1年次生	
		前期 基礎学習期	後期 発展学習期
科目編成	基礎から高度・専門・応用に至る編成	<ul style="list-style-type: none"> ○農業学習に必要な言語力や計算力、社会性の醸成に資する教養科目 ○農業生産管理に必要な基礎的知識を修得する講義、演習 	<ul style="list-style-type: none"> ○高度・専門的な農業生産技術、6次産業化の進展に向けた講義・演習 ○各コースが目指す人材育成目標に沿った選択科目及び体験学習
	実習区分	コース実習Ⅰ	コース実習Ⅱ
コース実習	講義や演習で得た知識を実習で体験し、生きた知見として修得	基本的な農作物や家畜の栽培・飼養管理、食品加工体験を通して、農業との関わり方を明確にする。	高度・専門的な農作物や家畜の栽培・飼養管理、食品加工の実践を通して技術習得と感覚を醸成する。
		農業生産技術コース 農業技術の深化に関するプロジェクト課題の探索	農業生産技術コース 農業技術の深化に向けたプロジェクト課題への取り組み
模擬会社	日常の実習を会社活動とみなし、一体的に活動	6次産業ビジネスコース 6次産業化の進展に関するプロジェクト課題の探索	6次産業ビジネスコース 6次産業化の進展に向けたプロジェクト課題への取り組み
		農業との関わり方と将来ビジョンの明確化	将来ビジョンの実現に向けた課題設定と計画作成 「現状突破型(ブレイクスルー)目標」の設定
学生自治会	集団活動を学校行事と位置づけ、積極的に支援	コース配属 多種多様な農作物・家畜、食品加工等の基礎的技術習得 安全ルールを遵守した作業管理 農作物・家畜の観察	コースで栽培・飼養する農作物・家畜等の管理作業の修得 安全・効率的な作業手順と役割分担の構築 問題の現状分析と課題の明確化 計画発表プレゼンテーション演習
		担当配属 各担当部署の役割を理解 企画開発部 品質・農場管理部 営業部 総務・経理部	模擬会社の運営体制を反映した実習 模擬会社商品化検討 株主総会の開催 新年度事業、新役員決定
主な学校行事	サークル活動 新商品開発サークル等(自主的な模擬会社活動) スポーツサークル、フラワーアレンジメント等文化系サークル	総会 新入生歓迎会 四国農学連総会	スポーツ大会 農大祭 収穫祭 意見発表会 臨時総会 卒業祝賀会
		入学式 三者面談 剣山登山 後援会総会 三者面談 専攻旅行	体験学習・第1回 農業／6次産業 計画発表会 体験学習・第2回 農業／6次産業

2年次生		ねらい
前期 発展学習期	後期 総括学習期	
<p>○高度・専門的な農業生産技術、6次産業化の進展に向けた講義・演習</p> <p>○模擬会社と関連した講義・演習</p> <p>↓</p> <p>コース実習Ⅲ 実践</p>	<p>○高度・専門的な知識と地域社会・経済、組織運営への理解を深める講義・演習</p> <p>○模擬会社の運営と関連した総括学習</p> <p>↓</p> <p>コース実習Ⅳ 実践</p>	<p>講義や演習で得た知識を実習で体験し、学習過程と論文とりまとめを通して“生きた知見”として修得</p>
<p>互いに協力し合いプロジェクトや模擬会社の目標達成に向け粘り強く実践するとともに、幅広く作業体験を積み重ねる。</p> <p>農業生産技術コース 農業生産技術の改善に関する問題解決の視野を拡大</p> <p>6次産業ビジネスコース 6次産業化の進展に関する問題解決の視野を拡大</p> <p>Plan、Do、Check、Actionの過程を進捗管理「プロジェクト・マネジメント」手法の活用</p> <p>プロジェクト課題品目の栽培・飼養管理技術の習得 安全で効率的な作業手順を1年次生へ助言 調査研究、データ収集等進捗管理と達成状況の把握 中間発表プレゼンテーション</p> <p>模擬会社体制を反映した運営方法を1年次生へ助言 商品化技術課題の地域波及方法の検討 企画、製造等の作業工程管理、流通販売戦略の検討</p> <p>プロジェクトの成果≒模擬会社商品</p>	<p>プロジェクトの実践過程や得られた成果のとりまとめを通して、卒業後、社会で必要とされる問題解決能力を養う。</p> <p>農業生産技術コース 成果の自家農業への導入検討や地域農業への提案</p> <p>6次産業ビジネスコース 成果の自家経営や地域農業、地域産業への普及・貢献方法の提案</p> <p>論理的な思考力、深い洞察力、鋭い観察眼及び忍耐力の養成</p> <p>プロジェクトの総括と振り返り 得られた知見や感覚の発展応用の検討 中間検討及び成果発表演習 他者の発表に対する適正な評価の視点</p> <p>卒業提出</p> <p>模擬会社運営体制の改善策提言 商品化技術成果の地域への提案 開発商品の地域農業・地域産業への提案</p> <p>株主総会社</p> <p>チームで働き、目標を達成</p>	<p>将来、様々な困難に直面したときの問題解決能力を養成</p> <p>6次産業化の過程を体験し、起業(企業)家精神と様々なビジネススキル、社会性を養成</p>
<p>新商品開発サークル等(自主的な模擬会社活動)</p> <p>スポーツサークル、フラワーアレンジメント等文化系サークル</p>		
<p>総会</p> <p>新入生歓迎会</p> <p>四国農学連総会</p>	<p>スポーツ大会</p> <p>農大祭</p> <p>収穫祭</p> <p>臨時総会</p> <p>卒業祝賀会</p>	<p>“仲間づくり” “自律と協調の精神” “社会性”を養成</p>
<p>農業／6次産業 体験学習・第3回</p> <p>農業／6次産業 体験学習・第4回</p> <p>専攻旅行</p>	<p>農業／6次産業 体験学習・発表会</p> <p>中間検討会</p> <p>成果発表会</p> <p>卒業式</p>	

3 修学達成度の把握と学校関係者評価

(1) 修学達成度の把握

①修学達成度自己評価手法の導入

プロジェクト活動、卒業論文、コース実習等について、学生個々が自己目標を設定し、自己採点することにより修学達成度を把握し、指導職員との認識を共有しながら修学過程を積み重ね、根拠ある達成感の醸成につとめる。

②成績評価手法

成績評価は、新たに客観的指標としてGPA (Grade Point Average) 手法を導入し、令和2年度入学生より適用する。

GPA手法の導入により、農業大学校教育の特色であり、総履修時間と単位数に大きなウェイトを占める実習やプロジェクト学習等の評価を従来よりも重視した成績評価にするとともに、学生個々が農業大学校の履修目標に対する達成度を客観的に把握することで、達成感並びに修学意欲の維持と向上につなげる。

GPAの算出方法は、成績評価の素点をグレードポイント (GP) に変換し、これに当該科目の単位数を乗じてその総和を履修総単位数で除して得られた値とする。

GPAは不合格となった科目も含め算出し、小数点第3位を四捨五入し表記する。

なお、GPAは個々の学生が農業大学校の履修目標に対する達成度を示すものであり、学生の成績順位を算出する手法ではないことから、当面の間、成績評価は従来の各科目の素点を単位数で加重平均した値を併用する。

素点と評価、GP (Grade Point)

素点	評価	成績書記載	GP
90～	A	特に優れている	4
80～89	B	優れている	3
70～79	C	合格基準に達している	2
60～69	D	更なる努力が必要	1
～59	E	不合格 (不認定)	0

(2) 学校評価

①基本的な進め方

平成24年度より「学校評価システム」を導入し、教育活動その他の学校運営の状況について自ら評価を行い、PDCAサイクルに基づき年度当初に学生の学習面及び生活面並びに学校運営の実情を分析し、重点目標・課題・活動計画・評価指数を設定する。

実践段階においては様々な評価指標を用い目標の進捗状況や取り組みの適正を日常的にモニタリングする。

年度末には学生及び職員によるアンケートにより、評価指標の達成度と活動の実施状況について総括的に評価を行い、次年度の課題につなげる。

②令和2年度重点目標

重点目標①多様な進路に応じた人材育成

重点目標②地域農業への寄与

<別添> 徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校学校評価実施要領

4 多様な進路に対応した指導体制

(1) 早期からの進路指導

入学当初から進路アンケートや三者面談を行い、早期から進路に対する意識を深める。

(2) 農業の担い手、地域農業のリーダー育成

ハローワーク研修、農業体験学習、農業巡見、農業法人との交流会、農業法人へのインターンシップ等の機会を有効活用し就農を支援する。

(3) 食品産業等農業関連企業への就職支援

ハローワーク研修、6次産業体験学習、6次産業巡見、インターンシップ等の機会を有効活用し、食品産業や農業関連産業への就職を支援する。

(4) 4年制大学への編入学対応

4年生大学への編入試験対策と進学後の単位認定に供するため、進学英語Ⅰ・Ⅱ、化学、生物を選択科目にするとともに、入試に関する情報を共有し、補習や模擬面接を積極的に行う。

令和4年度 進路指導、学校評価関係 年間実施計画

1年次生	4月	作文「農大生活について」「農大卒業後について」提出 進路・資格希望調査 三者面談	
	5月	後援会総会・三者面談（コース配属決定）	
	7月	進路・資格希望調査 前期授業評価	
	8月	課題作文「将来のビジョン」	
	9月	進路・資格希望調査	
	10月	学校評価中間アンケート インターンシップ交流相談会	
	12月	四国農学連意見発表会	
	1月	第1回 農業体験学習／6次産業体験学習 後期授業評価	
	2月	学校評価アンケート ハローワーク研修	
	3月	第2回 農業体験学習／6次産業体験学習 就職・企業エントリースタート	
	2年次生	4月	進路・資格希望調査
		5月	後援会総会・三者面談 第3回 農業体験学習／6次産業体験学習

- 6月 農業法人との交流会・就農相談
- 7月 進路・資格希望調査
ハローワーク研修
前期授業評価
- 8月 第4回 農業体験学習／6次産業体験学習
- 9月 進路・資格希望調査
- 10月 農業巡見
学校評価中間アンケート
- 1月 後期授業評価
- 2月 学校評価アンケート

※上記以外にも個別面談、模擬面接、進路相談・助言等を適宜実施

<別添>農業・6次産業体験学習実施要綱

本教育計画書は、内容を変更する場合がある。